

作曲家 細谷 一郎

那珂市歴史民俗資料館



細谷一郎（『細谷一郎歌曲全集』より）

細谷一郎は明治37年（1909）1月22日に芳野村（現那珂市）鴻巣で誕生した。子供のころから音楽が好きで、近くの又三溜池のほとりでハモニカを練習する姿がよく見られたといわれる。16歳で単身上京、山田耕筰を訪ねて門下生となり、作曲家への道を志す。当時のことを耕筰の娘である日沙氏はこう語っている。

「・・・特に細谷さんは、（他のお弟子さんよりも）もっと別な意味で家族の一員のように父に対して深い尊敬と愛情を持ってくださいました。・・・誠実でかたくななまでに実直な性格が、私共両親に対しての態度にも出ていたのかもしれませんが。」（『細谷一郎歌曲全集』「細谷さんの思い出」より）。耕筰は、一郎を愛情込めて“ピンチャン”（一郎の「一」がピン）とよび大変信頼していたという。

一郎は、その後日本交響楽団団員（打楽器担当）を経てNHK専属作曲家として、「ラジオ名作劇場」、「学校放送の時間」など、たくさんのテーマソングを作曲した。その活動の中で与田準一（福岡県みやま市出身）と出会う。与田は児童文学者や作詞家としても有名で、北原白秋のもとで文学を研鑽し数々の童話や童謡を発表している。

一郎が与田の母校の校歌を作曲したことから、一郎の母校芳野小学校（那珂市）の校歌を作詞した。この二人は、那珂市内の戸多小学校・那珂第三中学校の校歌を作っており、また童謡では『たかい たかい』が全国的によく知られている。

一郎が作曲した那珂市内の校歌は、芳野中学校（那珂第三中学校に統合）・瓜連中学校・那珂第一中学校がある。作曲した童謡には、「みつばちぶんぶん」（小林純一作詞）、「はるがくる」（与田準一作詞）、「とおせんぼ」（北原白秋作詞）など多くの作品があり、「落ち椿」は日ごろよく口ずさんでいたという。さらに歌劇「サロメ」は代表的で、音楽新聞社より作曲賞を得て日本交響楽団（現NHK交響楽団）の指揮を執っている。

合唱団への指導にも多く関わり、中でも石岡市では盛んであった。今でも当時の教え子たちが盛んに活動している。その関係から石岡小学校や園部小学校など石岡市内の小・中学校の校歌も多く作曲している。親



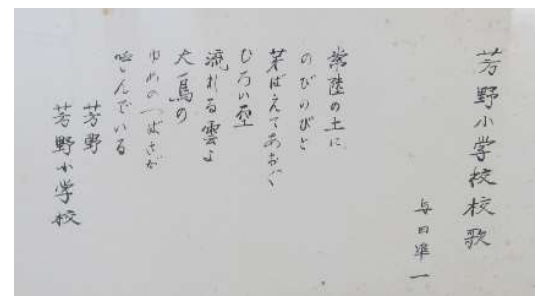
老師（山田耕筰先生）をいたわる
細谷 一郎 先生（5.31.11）

（芳野小学校所蔵）

交のあった小林二郎氏（石岡市・府中病院長）は「（先生は）正義や誠実に関しては自分に最も厳しく一徹を通し、他人にも厳格でした。・・・かよわき命あるものへの「憐憫」や真摯に生きる者への思いやりはつよく、純粹なるものへの熱情を率直に表すロマンチストでもありました。」（『細谷一郎歌曲全集』「細谷先生の面影」より）。

一郎の師山田耕筰に対する謝恩の念は終生変わることなかった。晩年、体調を崩した山田耕筰をいたわる一郎の姿がそれをよく示している（写真左）。

平成3年（1991）に、茨城県茎崎町（現つくば市）で死去（87歳）したが、その数年後、一郎とその作品を偲ぶ『細谷一郎歌曲全集』が出版された。一郎の音楽にかけた情熱、師山田耕筰を思う熱い心が集約されたこの本の存在こそ、一郎自身そして彼の作品が死後も多くの人々に愛されている証しであろう。



与田直筆の芳野小校歌（当館所蔵）